

第4回いわき市中小企業・小規模企業振興会議 議事録

1 会議概要

- (1) 開催日時 平成29年3月17日(金) 10:00~12:00
 (2) 開催場所 いわき市役所8階 第8会議室
 (3) 出席者(順不同・敬称略)

○ いわき市中小企業・小規模企業振興会議委員(11名中7名出席) (順不同、敬称略)

| 区分 | 所属等 | 職氏名等 | | 出欠 |
|------------|------------------|----------------------------|--------|----|
| 中小企業・小規模企業 | 福島県中小企業家同友会いわき地区 | 副会長 | 丹野 勇雄 | 出席 |
| | いわき経済同友会 | 幹事 | 佐久間 一枝 | 出席 |
| 大企業 | いわき商工会議所 | 市内大手企業復旧・復興懇談会 | 佐藤 博史 | 出席 |
| | | 中小企業振興部長兼中小企業相談所長 | | |
| 中小企業団体等 | いわき地区商工会広域連絡協議会 | 主任主査 | 川島 秀一 | 出席 |
| | いわき産学官ネットワーク協会 | インキュベーションマネージャー | 奥瀬 円 | 欠席 |
| | 支援関連等専門家 | NPO 法人 TATAKIAGE JAPAN 理事長 | 松本 丈 | 欠席 |
| | | 税理士 | 木幡 仁一 | 出席 |
| | | 社会保険労務士 | 松本 麻衣子 | 欠席 |
| | | マーケティングアドバイザー | 橘 あすか | 欠席 |
| 金融機関 | いわき信用組合 | 常勤理事兼業務企画部長 | 本多 洋八 | 出席 |
| 関係行政機関 | いわき市 | 産業振興部長 | 荒川 洋 | 出席 |

○ オブザーバー(3名) (順不同、敬称略)

| 所属等 | 氏名等 | |
|------------------|---------------|-------|
| 福島県中小企業家同友会いわき地区 | 政策提言委員長 | 大内 政雄 |
| 東邦銀行いわき営業部 | 上席副部長 | 福井 博明 |
| ひまわり信用金庫 | 経営支援グループ主任調査役 | 荒川 信 |

○ 事務局(8名)

| 所属等 | 氏名等 | | |
|-------|--------|---------|-------|
| 産業振興部 | 次長 | 渡邊 一弘 | |
| | 産業創出課 | 課長 | 佐竹 望 |
| | | 課長補佐 | 荒木 学 |
| | | 主任主査兼係長 | 持地 史隆 |
| | | 係長 | 高木 則和 |
| | | 主査 | 山下 大輔 |
| | 商業労政課 | 課長 | 中澤 秀夫 |
| | 工業・港湾課 | 課長 | 阿部 伸夫 |

(4) 次第

- ① 開会
- ② 協議事項(具体的な取組みの状況等について、今後の会議の進め方について)
- ③ その他
- ④ 閉会

2 内容等

事務局より、主要なテーマごとの取組み状況について報告を行い、具体的な事業の検討状況に係る情報共有や、新たな事業構築について協議を実施し、今後は、

- ・ 各機関等で実施予定のものや連携・協働で実施するものについては、その状況を適宜、振興会議に報告
- ・ 連携した伴走型支援事業(基金創設)については、基金創設のスケジュールに合わせて、基金の規模、取組み主体、支援事業、事業者選定方法などの具体的な内容について、振興会議委員へのヒアリングなどを実施しながら検討を進める

といった方向性で対応することで委員の意見集約が図られた。

なお、委員からの主な意見は次のとおり(パターン別、概ね発言順に整理)。

A 委員

中小企業の抱える課題を1つの機関で対応することは難しいことから、民間主導で基金を創設し、様々な機関が連携して行う伴走型支援事業は、価値があるものだと思う。

実際の支援事業は民主導で行うとしても、名実ともにオールいわきで進めるため、基金の創設や応分の負担については市からも支援をいただき、創設にあたっては、市にもリーダーシップを発揮していただくなど、特段の御配慮をお願いしたい。

B 委員

基金創設にあたっては、オールいわきで進めるため、商工会や大企業にも関わりをもってほしい。様々な機関が関わって基金をつくっていくかたちにしたいと考えており、それぞれの機関で持っているアイデア・課題などを持ち寄って実施すべき案件を決めていっても良い。

C 委員

基金の設置主体や活動事業はどのようなものを考えているのか

D 委員

基金の設置主体は、振興会議メンバーを中心に構成する「(仮称)中小企業等振興協議会」となり、中小企業等の経営革新などに活用可能な補助金として、国の小規模企業持続化補助金があるが、本事業はいつまでも続くか分からないので、例えば、オールいわきの体制で基金を設置して、そのような事業を実施することで、中小企業・小規模企業を持続的に支援する体制を整えていくことなどを考えている。なお、細かい内容については、後日改めて、委員の皆様にご意見を伺ったり、関係機関と意見交換をしながら、検討していくこととなると思う。

A 委員

持続可能な地域づくりというのが1つのキーワードだと思う。地域に存在する個人や企業などがすべてステークホルダーだとすると、基金などを設置して協働していくことは必要だと思う。先ほど例示されたが、国が補助金といった制度で事業者の背中を押した段階から、地域においても自らがこうした流れに対応していく仕組みづくりが求められていると考える。その意味からは、基金は次のステップにいく仕組みなのかなと思う。

C 委員

基金の事業を実施する団体はどこになるのか。

B 委員

実施主体は、実施事業によって関係機関等が違うので、事業によって変わっていくと思う。

E 委員

日本国中で人財の取り合いをしている。その中で、いわきはハンデを持っていると思う。

基金の取組みを進めるなら、明るく楽しく全国に紹介してほしい。他と同じようなやり方では埋もれてしまう。

F 委員

まだ、しっかりとイメージはできていないけど、民間主導の基金創設については賛同したい。

G 委員

商工会としては、今後も伴走支援を行っていく予定。伴走支援には信頼関係が大切。できるだけ多く接触して事業者の課題を捉えて支援していくことが重要。事業者が何をしてほしいのか漠然としていることが多いので、受けて側の目線で利用者が分かりやすいように情報提供することも大切。

連携をしていくにも、信頼関係がないと、連携していくのも難しい、振興会議の中で良い関係を作っていけたらと考えている。